

# 近藤譲 講演会 2018

講演とオープン・ディスカッション

## 「音楽と自然——現代における芸術音楽作品の危機」

こんにちの「芸術」に当たる概念は、西洋の長い歴史を通じて変化し続けてきました。そしてまた、「自然」の概念についても同様のことが言えます。しかし、そうした概念の変化にもかかわらず、「芸術」と「自然」は、たとえそれぞれの概念が変わっても、常に対立する関係に置かれてきました。そうした対立は、(少なくとも音楽に関して言えば)20世紀半ばの急進的な前衛主義の音楽に於いて、融解し始めます。そしてそれは、音楽に於ける「作品」の自律性が危うくなっていくことと軌を一にしているように思われます。

この講演では、先ずごく概略的に、「芸術」についての議論の変化と、「自然」の概念の変化の歴史を辿ります。その上で、20世紀の芸術音楽の作曲様式の変化が、「音楽作品」の自律性を著しく弱めるに方向に向かったことを指摘して、そうした方向性が、結果的に、音楽作品を自然物に近づけることになったことを論じます。そして、「自然」と対立することのなくなったこの音楽作品が、どのように「芸術」として成立し得るのか(或いは、もはや「芸術」といった概念が無効にならざるを得ないのか)を考察することを通じて、現代に於ける音楽創造の可能性を探ろうと思います。(近藤譲 記)

**会場** 両国門天ホール

墨田区両国 1-3-9 ムラサワビル 1-1 階

**日時** 2018.12.30(日)

14:00 開演 (13:30 開場)

\* 終了時間: 16:30~17:00 の予定

**ご予約** [info@buncademy.co.jp](mailto:info@buncademy.co.jp)

**受講料** 全対象 2000 円



© Photo by Masao Kondo

### ■ 講師：近藤 譲 Jo Kondo

作曲家。1947年東京生まれ。東京藝術大学卒業。1970年代初頭に、自ら「線の音楽」と名づけた独特の作曲方法論を提唱し、以後国際的に活躍。ロックフェラー3世財団、ブリティッシュ・カウンシル等の招聘でニューヨーク、ロンドン等に滞在。内外の多くの国際音楽祭にテーマ作曲家として招かれ、又、欧米の様々な主要機関・演奏団体から作曲委嘱を受けている。

作品は、オペラやオーケストラ曲から、室内楽、独奏曲、声楽曲、電子音楽までの広い範囲に亘って、145曲を超える。それらの多くは、内外で頻りに演奏され、CDに録音されている。ほぼ全作品の楽譜がイギリスのヨーク大学音楽出版局(UYMP)から、一部の作品が、ニューヨークの C. F. ピーターズ社から出版されている。また、6冊の著書を始めとする活発な文筆・翻訳活動を展開。永年、お茶の水女子大学と東京藝術大学で教鞭をとり、国外の大学・研究機関での招待講演も数多い。現在、昭和音楽大学教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本現代音楽協会会長。アメリカ芸術・文学アカデミー海外名誉会員。2018年3月に第68回芸術選奨文部科学大臣賞(音楽部門)を受賞。

司会：星谷丈生 Takeo Hoshiya (作曲家)

【主催】 BUNCADEMY REUNION

【協力】 一般社団法人もんでん(両国門天ホール)